

各所属長並びに関係の皆様

吃音講習会実行委員会  
顧問 牧野泰美  
(国立特別支援教育総合研究所)

### 第3回 親、教師、言語聴覚士のための吃音講習会のご案内

#### 1 趣 旨

「吃音の課題は、いわゆる吃音の症状にあるのではなく、吃音を否定することで起こる影響、つまり、吃音を隠し、話すことを避ける行動、吃音は劣ったもので、治らないと幸せにならないなどの思考、どもるかもしれないとの不安や恐怖、どもった後の惨めな感情にある。子どもがそれに気づき、日常生活の中での困難を自らの力で対処する力が育つために、子どもに同行するのが、親や教師、臨床家の役割だ」

吃音を生きる子どもに同行する教師の会では、こう考えて、第1回吃音講習会のテーマを「子どもと語る吃音肯定の物語」に、第2回講習会のテーマを「当事者研究」として続けてきました。今回は「ナラティブ・アプローチ」について学びます。

「どもることで困ること、ある？」と子どもに尋ねても、「別に」のひと言で終わってしまい、次に話が進まない、ことばの教室担当者や言語聴覚士、保護者から聞くことがあります。子どもたちひとりひとりの思いや考えは異なり、マニュアル的な対処はできませんが、子どもたちの語りを丁寧に聞き、こちらの思いや考えを丁寧に伝えていく中で、吃音の課題にどう向き合い、対処するかが明確になってきます。

今回の講習会で取り上げる「ナラティブ・アプローチ」の考え方や技法は、吃音とともに生きる生活の中での体験を、一つの物語として理解します。子どもは物語の語り手、当事者・主人公であり、保護者や担当者はその子に関わる当事者となります。その時、唯一の正しい物語があるとはとらえるのではなく、お互いの語りを摺り合わせる中で、新しい物語を作り出していくことが大切だと考えています。

長年、医療現場や教育現場で、「ナラティブ・アプローチ」の立場から「発達障害大学生支援」などに取り組んで来られた、斎藤清二・富山大学保健管理センター長・教授に、こうしたプロセスをどう進めていけばよいか、「ナラティブ・アプローチ」の基本的な考え方から実践までを学びます。講義や対談、参加者全員の語り合い、学び合いを通して、2日間の講習会の中でじっくり考えたいと思います。また、「ナラティブ・アプローチ」的なことばの教室の実践や、吃音の当事者の実践の発表をもとに、参加者で検討を加えながら、学んでいこうと考えています。

「ナラティブ・アプローチ」や「当事者研究」の名前を初めて知る方々にとっても、わかりやすく、丁寧に話し合いをすすめていきますので、安心してご参加下さい。きっとみなさんの日々の実践の中にも、これらに繋がるものがあると思います。どもる子どもやどもる人とともに、「吃音治療」ではない、当事者の幸せにつながる取り組みを、一緒に模索しましょう。

どもる子どもに関わる方、吃音に関心のある方々の幅広い参加をお待ちしています。全国のことばの教室の担当者、言語聴覚士、当事者、保護者と一緒に、日ごろの取り組みを見つめ直し、新たな展望を開くために、今年の夏は金沢の地で、熱く、楽しく有意義な時間を作りましょう。

実行委員長 高木浩明 (宇都宮市立陽東小学校)

- 2 主 催 吃音を生きる子どもに同行する教師の会  
NPO法人大阪スタタリングプロジェクト  
日本吃音臨床研究会
- 3 後 援 NPO法人全国ことばを育む会  
石川県ことばを育む親の会
- 4 日 時 2014年8月2日(土) 10:30~19:45  
3日(日) 9:15~16:15

## 5 会場 石川県文教会館

〒920-0918 金沢市尾山町10-5 TEL076-262-7311



### 【アクセス】

#### ■バス（鉄道）利用

JR金沢駅から香林坊方面行きのバスを利用。「南町」下車、徒歩2分

#### ■自家用車

お車でお越しの際は、会館には駐車スペースがありません。近くの有料駐車場をご利用ください。

#### ■航空機

小松空港よりは、金沢市内經由バスにて「香林坊」下車、所要約50分。  
（「香林坊」より徒歩10分）

## 6 内容・プログラム（予定）

### 【8月2日（土）】

- 10:00 受付
- 10:30 基調提案1 伊藤伸二・日本吃音臨床研究会
- 11:30 休憩（昼食）
- 12:30 講義1 斎藤清二・富山大学保健管理センター長・教授
- 14:10 講義2 斎藤清二・富山大学保健管理センター長・教授
- 16:00 対談 斎藤清二&伊藤伸二
- 17:45 グループ討議
- 18:15 質問を中心とした全体でのディスカッション
- 19:45 公式プログラムの終了 懇親会会場に移動

### 【8月3日（日）】

- 9:00 受付
- 9:15 基調提案2 牧野泰美・国立特別支援教育総合研究所総括研究員
- 10:00 基調提案3 坂本英樹・向陽台高校教諭、どもる子どもの保護者
- 10:45 実践発表と討議1 ことばの教室の実践
  - ①高木浩明・栃木県宇都宮市立陽東小学校ことばの教室
  - ②溝上茂樹・鹿児島県知名町立知名小学校ことばの教室
  - ③渡邊美穂・千葉県千葉市立院内小学校ことばの教室
  - ④未定
- 12:30 休憩（昼食）
- 13:30 実践発表と討議2 成人のどもる人の場合
  - ①東野晃之・大阪スタタリングプロジェクト
- 15:15 みんなで語ろう、ティーチイン
- 16:15 終了

- 7 講習会参加費 5,000円  
\*講習会1日目の終了後に、懇親会を企画しました。会費は、講習会の参加費とは別に、当日2,500円を集金させていただきます。皆様のご参加をお待ちしております。
- 8 参加申し込み 参加ご希望の方は、参加申込書に必要事項を記入し、郵送、またはメールに添付し下記の申し込み先までお送りください。同時に郵便局より参加費の振込をお願いします。入金確認ができましたら、受講票をお送りします。申し込み締め切りは2014年7月29日(火)です。なお、参加費は当日キャンセルされてもお返しできません。受講票は他の方にお譲り下さい。  
※郵便振替 加入者名：吃音講習会 口座番号：00960-0-282459
- 9 申し込み先 千葉市立院内小学校 ことばの教室 渡邊美穂  
〒260-0007 千葉市中央区祐光1-25-3  
Mail : [kituon-kosyukai@live.jp](mailto:kituon-kosyukai@live.jp)
- 10 問い合わせ先 日本吃音臨床研究会 TEL/FAX 072-820-8244  
〒572-0850 大阪府寝屋川市打上高塚町1-2-1526
- 11 宿泊その他 宿泊は、各自直接お申し込み下さい。金沢市内には、たくさんビジネスホテルがあります。会場は、市の中心部で、香林坊という繁華街に近く、尾山神社のそばです。早めに宿泊の予約をされることをおすすめします。  
講習会中の食事は、近くの食堂やコンビニ等をご利用ください。研修会場内での飲食は可能です。

## 【講師紹介】

### ◇齋藤 清二 (さいとう・せいじ) 富山大学保健管理センター長・教授

新潟大学医学部卒業。県立がんセンター新潟病院、東京女子医科大学消化器病センター、新潟大学医学部附属病院、富山医科薬科大学医学部などを経て、1993年、英国セントメリー病院医科大学へ留学。1996年、富山医科薬科大学第3内科助教授、2002年より富山大学保健管理センター長・教授。(内科学、心身医学、臨床心理学、医学教育学)

著書に、『はじめての医療面接—コミュニケーション技法とその学び方』医学書院、『ナラティブ・ベイスト・メディスン—臨床における物語りと対話—』金剛出版、『ナラティブ・ベイスト・メディスンの実践』金剛出版、『ナラティブと医療』金剛出版、『エマージェンス人間科学—理論・方法・実践とその間から—』北大路書房、『グリーンハル教授の物語医療学講座』三輪書店、『ナラティブ・ベイスト・メディスンの臨床研究』金剛出版、『発達障害大学生支援への挑戦—ナラティブ・アプローチとナレッジマネジメント』金剛出版、『ナラエビ医療学講座—物語と科学の統合を目指して』北大路出版など。

### ◇牧野 泰美 (まきの・やすみ) 国立特別支援教育総合研究所総括研究員

専門は言語障害教育、言語獲得、コミュニケーション障害とその支援など。「全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会(全難言協)」をはじめ、各地の「きこえとことばの教室」の担当者や、親の会等と連携しながら、子どものことばやコミュニケーションへの支援の在り方、きこえとことばの教室の役割などについて研究活動を進める。

著書に、『言語障害のおともだち』(ミネルヴァ書房)など。

### ◇伊藤 伸二 (いとう・しんじ) 大阪教育大学非常勤講師・日本吃音臨床研究会会長

21歳の時、セルフヘルプグループ言友会を創立。大阪教育大学専任講師(言語障害児教育)などを経て、現在伊藤伸二ことばの相談室主宰。第1回吃音問題研究国際大会を大会会長として開催し、国際吃音連盟の礎を作る。論理療法、交流分析、アサーティブ・トレーニング、認知行動療法などを活用し、吃音と上手につきあうことを探る。著書に、『両親指導の手引き書41 吃音とともに豊かに生きる』(NPO法人全国ことばを育む会)、『吃音の当事者研究—どもる人がべてるの家と出会った』(金子書房)など。

## 医療におけるナラティブ・アプローチと物語能力

(齋藤清二教授のツイッターより)

ナラティブとは、「物語」「語り」「物語り」「ものがたり」などと訳され、一般的には「できごとについての言語記述（ことば）を、何らかの意味のある連関によってつなぎ合わせたもの、ことばをつなぐことによって、『意味づける』行為」と定義される。医療や、人生一般において物語が大きな力を持つのは、物語が「経験を意味づける」働きをもつからで、私たちは、刻々と経験するできごとの連鎖を物語的に意味づけながら生きている。物語の特徴として、3つ挙げられる。

- ①物語は多様な意味をもつ。物語は経験を意味づける働きをし、その意味づけ方は一通りではない。例えば、「それまで話の輪に入っていなかった私が一言発言したら、周囲の人がみな黙ってしまった」との経験から、ある人は「私の意見が正当なので、みな反論できなかった」の物語を紡ぎ出す。ある人は「私が空気を読めない発言をしたので、しらけてしまった」との物語を紡ぎ出すかもしれない。経験の意味づけ方は複数存在し、どれが真実であるかを知ることが、多くの場合できない。
- ②物語のもつ「経験を意味づける」働きは、時として私たちの自由を奪い拘束してしまう傾向を持つ。ひとたび「私は空気が読めないで場を白けさせるような人間だ」との自己物語が形成されると、その人は毎日経験されるできごとを、全てその線にそって意味づけてしまうかもしれない。その人の言動とは必ずしも関係がなくても、誰かがちょっと顔をしかめたり、会話に空白ができたりすることをきっかけに、「やっぱり私の行動のせいだ」という物語が紡がれてしまうかもしれない。その結果その人は、社会活動において必要以上の苦しさを抱えてしまうことになるかもしれない。
- ③物語は変化していく。堅固で変化しようがないと思える自己物語でも、語る機会が与えられ、十分に聴きとられ、安心できる場での対話が促進されることで、徐々にではあっても物語は変化していく。物語の表現とその共有は、語る／聴くというチャンネルを介して行われることもあるし、書く／読むのチャンネルを通じて行われることもある。物語は書き換えうるもので、自ずから変容するものでもある。時には混沌の中から全く新しい物語が浮かび上がることもある。

医療におけるナラティブ・アプローチの特徴は、以下のようにまとめられる。

- ①病いを、その人の人生と生活世界の中で体験される一つの物語として理解する。「病い」とは患者自身が体験する「病気」の主観的側面のことである。
- ②患者さんを物語の語り手、物語の主人公として尊重するとともに、患者さんが自身の病いをどのように定義し、それにどう対応していくかについての患者さん自身の役割を最大限に尊重する。
- ③医療者の拠って立つ理論や方法論も、あくまでも医療者の一つの物語と考え、唯一の正しい物語は存在しないことを認める。
- ④医療とは、患者、家族、医療者等の複数の関係者が語る多様な物語を、今ここでの対話において摺り合わせる中から、新しい物語が浮上するプロセスであると考えられる。

ナラティブ・メディスン（物語医療学）の出発点は、コロンビア大学において2000年にスタートした医学生、研修医、看護師やソーシャルワーカーなどの医療者を対象とした教育と訓練のプログラムであった。シャロン教授は、2006年の著書『ナラティブ・メディスン』で、ナラティブ・メディスンは「物語能力（ナラティブ・コンピテンス）を通じて実践される医療」と定義している。「物語能力」の最も直接的な定義は「病いの物語を認識し、吸収し、解釈し、それに心動かされて行動するための能力」とされている。「物語能力を備えた医療者」とは、臨床実践の中でそれが必要とされる状況において、以下の「物語的行為」を実行することができる医療者であると考えられる。ナラティブ・アプローチについて次のようにまとめることができる。

- ①患者のことばに耳を傾け、病いの体験を物語として理解し、解釈し、尊重できる。
- ②患者がおかれている苦境を、患者の視点から想像し、共有することができる。
- ③多様な視点から複数の物語群を把握し、ある程度の一貫性を持つ物語を紡ぎ出すことができる。
- ④患者と物語を共有し、患者のために臨床判断を行い、それを実行することができる。